

今日のキーワード 拡大を続ける米国の家計『正味資産』

米国の家計が保有する資産、負債の状況は、米連邦準備制度理事会（FRB）が四半期ごとに公表する「財務勘定」統計で捉えることができます。「財務勘定」とは、金融機関、法人、家計といった各部門の金融資産・負債の推移などを、預金や貸出といった金融商品ごとに記録したものです。直近2017年7-9月期の統計は、12月7日に公表されました。それによると、家計の『正味資産』は前期に続き過去最高を更新しました。

ポイント1

家計の『正味資産』は8四半期連続で過去最高を更新 株価や住宅価格の値上りで総資産が拡大

- 17年7-9月期末の米国家計の総資産は112.4兆ドルとなりました。同年4-6月期末に比べ1.9兆ドル、率にして1.7%の増加となります。一方、総負債は15.4兆ドル、前期末比0.2兆ドル、同1.2%の増加にとどまりました。その結果、総資産から総負債を引いた家計の『正味資産』は96.9兆ドルとなり、15年10-12月期以来8四半期連続で過去最高を更新しました。

ポイント2

資産の7割が金融資産 株式、投信の保有比率が高い

- 資産の内訳は、金融資産が78.9兆ドル、非金融資産が33.5兆ドル、うち不動産が27.4兆ドルでした。
- 金融資産の内容を見ると、株式が17.3兆ドル、投資信託が8.3兆ドル、債券が3.9兆ドル（内訳は国債が1.3兆ドル、地方債が1.6兆ドルなど）、年金が22.9兆ドル、などとなっています。



今後の展開

資産効果が復活、消費に前向きになってきた米国の家計

■ 資産効果が復活してきた

米国では、株価や住宅価格が値上がりし、家計の『正味資産』が増えると、消費が拡大し、貯蓄率は低下するという関係が認められます。これは、資産価値の上昇によって、所得の伸び以上の消費を促していることになり、資産効果と呼ばれています。この関係は2007年の住宅バブル崩壊後に一時的に崩れましたが、最近、復活してきました。『正味資産』の拡大とともに、貯蓄率が落ちてきたのです。

■ 米国の家計は消費に対して前向き

直近7-9月期末の家計『正味資産』の対可処分所得比は6.7倍と過去最高となりました。これに対応する貯蓄率を過去のデータから求めると4%程度と推計されますが、実績値は3.3%でした。家計は『正味資産』の拡大を支えに、消費を積極的に行っていることとなります。それだけ米国の家計は消費に前向きになってきたといえ、景気拡大の追い風になる可能性が高いと見られます。

ここも チェック!

2017年12月11日 順調な拡大を示す米国の雇用統計（2017年11月）
2017年11月28日 最近の指標から見る米国経済（2017年11月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。